

SAPPORO 教区 NEWS

第23号

2015年4月12日

発行：カトリック札幌司教区事務局広報部
〒060-0031 札幌市中央区北1条東6丁目10

Tel. 011-241-2785 / ホームページ：http://www.csd.or.jp

＝主のご復活のお喜びを申し上げます＝

教区百周年を迎えるにあたって司教メッセージ発表

2015年4月13日～2016年9月4日までを「教区百周年の年」とすることを宣言

「教区百周年を迎えるにあたって」

司教 ベルナルド 勝谷 太治

札幌教区は、2015年4月13日に北海道全体が一つとなって独立した知牧区(※1)となつてから百年の節目の年を迎えます。現在、教区宣教司牧評議会を中心に記念行事などの計画を進めております。

その記念すべき日を迎えるにあたり、教区が一体となつて百年に向かって歩んで行けるように、百年の節目の日である知牧区となった2015年4月13日(月)から、百周年記念式典を行う2016年9月4日(日)までを「札幌教区百周年の年」とします。

この「教区百周年の年」を、2015年頭司牧書簡で述べました「出向いていく教会」をふまえて、「共同体」「宣教」「召命」について、一人ひとりが札幌教区の現状を改めて考え実態を認識し、その現状を打破するよう具体的に考え分ち合つて過ごして頂ければと思います。

例えば、
・信徒が宣教司牧の中心的役割を担うにはどうしたら良いかを考える
・建物にこだわらない教会共同体を作るにはどうしたら良い

かを考える
・常に宣教している(現在進行形の)共同体とはどのようなものかについて考える

さらに、札幌教区内に滞在する外国籍の方々の数が多くなつてきています。日本人共同体との交わりは地方によって差はあるとはいえ十分ではありません。外国の方々の存在は教会をより豊かに発展させる可能性を持っています。彼ら独自の共同体の絆を大切にしつつも、小教区内における彼らの立場を考える必要を感じます。彼らも札幌教区教会の大切なメンバーであり彼らの持つメンタリティーは私たちが教会の宝です。第2世紀の札幌教区は多国籍教会としての在り方も模索しなければなりません。そのために何をなすべきかを、この機会に一緒になって考えて頂ければと思います。

これから、教区宣教司牧評議会や各実行委員会から、「札幌教区百周年の年」に関するお知らせが適時皆様に送られていくと思えますが、司祭団・修道院・小教区・学校や福祉施設などの関連施設が心を一つにして、それぞれが求めなければなら

ない事柄を考え分ち合う機会を設けて、出来得る具体的な内容を決めて、一つ一つを「次の百年」に向けて着実に実行していきましよう。そして、私たちが現在置かれている苦難に立ち向かい、札幌教区の第2世紀のために歩み始めることができる

ように祈り、霊的に豊かな年と
してまいりましよう。

※1 教区となる前段階の呼び名の一つで、知牧区から代牧区となり、その後昇格して教区となります。

「札幌教区一〇〇周年の祈り」

慈しみ深い父である神よ、あなたを賛美し、ほめたたえます。
一〇〇年前あなたのみ摂理のうちに、信徒と修道者、司祭、宣教師の多くの労苦により北海道の大地に札幌教区の礎が建てられました。キリストの教会を全道に広げることができたことを心から感謝いたします。

今、わたしたちは先人たちの信仰の土台の上に、新たな一〇〇年に向かってあなたのご託を宣教し続けることを決意します。どうぞわたしたちを聖霊の光によって照らし力強く導いてください。

あなたのご託に飢え渇く現代の人々のために、この地に生きるわたしたちが新たな使命を担い現代社会の様々な問題に立ち向かう勇氣と術をお与えください。

あなたが聖母マリアを通して御子イエスをこの世にお与えになったように、母マリア様の取り次ぎによってわたしたちも日々の生活を通して、あなたの慈しみと愛をこの世に示すことができるようわたしたちを導いてください。
わたしたちの主、イエス・キリストによって。

アーメン

佐藤神学生の助祭叙階式

パウロ佐藤謙一神学生の助祭叙階式が、出身教会である函館の宮前町教会で、2015年3月7日(土)午前11時から行われた。



叙階を受ける佐藤助祭

ために自身を奉げるためである。そして家庭での慰めを放棄することであり、教会共同体からの慰めを受けることがなさらなければならない、皆さんから祈りとサポートが、これからも強くなされることを願っていますと結ばれた。

式の最後に、佐藤助祭は今日までのお祈りと支援への感謝と、これからの決意を述べ、来年、司祭叙階できるように一層のお祈りを願いました。

会場には札幌地区から貸切バスで駆けつけた信徒をはじめ、苫小牧地区や函館地区の330名余りの信者が助祭叙階をお祝いし、来年の司祭叙階に向けて神様の導きとお恵みをお祈りした。

勝谷司教は、助祭は司祭の前段階ではなく、聖職者として永遠の決意をする時であり、佐藤助祭もその決意をして、私の前で誓約書に署名をした。叙階式で自身が聖別されるのは、神の



挨拶する佐藤助祭と佐久間神学生

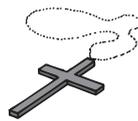
佐久間神学生の朗読奉仕者選任式

パウロ三木佐久間力神学生の朗読奉仕者選任式が、3月7日に佐藤神学生の助祭叙階に先立ち行われた。



選任される佐久間神学生

佐久間神学生は、これから歩んで行く道のりへの決意を語り、これからも皆さんの祈りとサポートをお願いいたします。



蓑島神学生の助祭司祭候補者認定式

2015年2月21日(土)午前11時から、北一条教会にて、ボナヴェントウラ蓑島克哉神学生の、助祭司候補者認定式を行った。



認定され挨拶する蓑島神学生

蓑島神学生は、哲学科の2年間の勉強を終え、4月から神学科に進んで本格的に神学を勉強することへの抱負と不安を語り、これからも皆さんのお祈りと支援をよろしくお願ひしますと語っていた。

司祭叙階ダイヤモンド祝・金祝を祝う

▼フランシスコ会のドミニコ神父様が、神さまに感謝して、叙階60周年を迎えられた

▼マリア会の富来神父が叙階50周年を迎えられたダイヤモンド祝を迎えられたドミニコ神父様から直筆の手記が寄せられました

▼フランシスコ会のルカ神父、ナルチゾ神父、マンフレード神父が司祭叙階50周年を迎えられ、小教区で祝いすると同時に、修道会本部に一時帰国されて同期の神父様方や会の兄弟たちと祝われた



お祝いのミサで説教するドミニコ神父

その後1年6ヶ月でアメリカ軍の捕虜となります。ここでの経験は日本に来て役に立ちました。私たちのテントは職人の集まりで必要なものは自分たちで作りました。例えば、ブリキを捨ててきてストーブや煙突を作り、テントを温かくしたり、ケーブル線を持ってきて電気を引いたり、皆さん真剣で楽しそうでした。多分、アメリカ兵は知っていても知らんぷりをしていたのか？ この経験は、その後の私を考える力を与えてくれました。必要ならば作ってみよう努力してみよう。

1948年4月15日フラ

ンシスコ会入会し、1954年4月25日フルダで司祭叙階。1956年10月7日宣教師として日本に來ました。58年前の旅は、ドイツの貨物船でスエズ運河を通って、いろんな国に荷物をおろしたり積んだりして2ヶ月位かかって横浜に着きました。

1957年8月に旭川大町教会に初めて赴任し、その後旭川地区の8教会と幼

稚園を受け持ちました。神さまと信者の皆さんの祈りに支えられての58年間で

ど、少しの散歩を楽しんでいます。

た。2014年4月29日司祭叙階60周年の感謝ミサと祝賀会が砂川・滝川で行われました。2014年4月31日90歳になった私は、旭川フランシスコ修道院にて生活しています。皆さんに親切にしてもらいながら毎日を送っています。昔のよ

うに山登りは出来ないけれども、少しの散歩を楽しんでいます。この私は杖が頼りですが、外の空気と景色の中を歩くのが好きです。神さまのもとに行けるのが何時か分かりませんが、今の私に出来ることは、祈りとほんの少しの手伝いです。父や母、姉兄に感謝！ 仲間にも感謝！ 信者さんに感謝！

旭川地区長 間野正孝神父からドミニコ神父様へ

ドミニコ神父様叙階60周年おめでとうございます

4月29日、ドミニコ神父様の司祭叙階60周年の記念ミサがカトリック砂川、滝川両小教区の信者を中心に、カトリック砂川教会聖堂において行われました。当日は昭和の日の休日でもありまして、空知地区の小教区をはじめ旭川近隣から約100名ほどの信徒とフランシスカンの兄弟たちがお祝いに駆けつけダイ

ヤモンド祝のお祝いを行いました。滝川、砂川、神居、末広、羽幌、大町・・等の旭川地区の小教区で宣教師として福音を宣べ伝えて働かれてきた神父様にとって、感慨深いダイヤモンド祝となったのではないのでしょうか。叙階25年、50年と元気で迎えられた神父様は沢山いると思います、90歳を超えて一人でミサが

出来、ダイヤモンド祝の祝賀会で踊りを披露される神父様は数少ないと思います。これからも、フランシスカンの長兄として、元気で活躍されることを祈りながら、ともに神様の道を歩んで行きましょう。



2014年度に來道した神父様

札幌教区・釧路地区に呼ばれて

釧路聖アントニオ修道院

中村 道生 神父



お祝いのミサを司式するルカ神父

昨年の4月、大阪の生野教会から札幌教区の釧路地区に呼ばれ、緑ヶ岡の聖アントニオ修道院に3人のフランシスコ会の兄弟と一緒に住んでいます。釧路に住むのは初めてですが、1975年司祭に叙階されてはじめの任地が札幌北11条の教会でした。

青年会と聖歌隊の担当を仰せつかったのですが、青年会は北大、藤、天使の学生など50〜60人もいて、その半分ぐらいは聖歌隊員でした。私はまだ何も分から

ず、何も出来ずに邪魔にならないようにそばにいた感じでした。先輩の兄弟から、北海道の教会にはどこでも幼稚園があるからバスの免許を取るに言われ、春に初めて枯れ葉の落ちる秋になってようやくパスしました。その年の冬、「典礼聖歌」を導入するために高田三郎先生をお招きしたのですが、お礼を込めて青年たちと手稲山にスキー行つた帰り道、下り坂をスリップし、雪の壁にぶつかって360度回転。先生の寿命を少し縮めてしまったかも知れません。さらに2年後、旭川で半年、宣教師の帰国休暇の留守番を命じられ、その間「何もするな」と言われていたのですが、夏休みの時でもあったので「キャンプに行こう」と、無謀にも初めてのバスで子供たちを連れて羽幌の教会まで行きました。子供たちは大喜びでしたが、リーダーや保護者たちは必至で祈って

くれたと思います。おかげでみんな無事に戻れました。

その後、5年間生まれ故郷、福岡の高宮教会で司牧を担当。心配は、両親が隣の教会である司教座の大名町教会に所属していたので、ミサは必ず所属の教会で預かるように言っておきました。ところがその年のクリスマスに説教を始めようとしたら目の前に両親がいました。ある時、父は私に説教しました。「お前は、説教するときには、はっきり大きな声を出せ。習字を練習してきれいな字を書け。運転するときはスピードを出しすぎるな」と。司祭になって来年で40年になりましたが、どれも守られています。管区長は改心するよう願ってか、修練院に付属する北浦和教会に3年派遣。つぎに大阪の在日韓国入信徒が最も多い生野教会に派遣されました。ここで主に韓国人司牧を9年担当。次に韓国語の勉強にと韓国に1年の予定で派遣されましたが、なぜか9年滞

在することになり、2005年に再び生野に戻りさらに9年韓国人司牧を担当しました。27年間の韓国人司牧については別の機会に述べたいと思っています。

ちなみに、釧路に来てまもなく、札幌教区の「正義と平和」の担当司祭として任命を受けました。今年の正義と平和全国大会は福岡で開催され、外国人司牧について学んで来られたらと考えています。釧路教会では先日、観光客としてきたという韓国人の信者に会いました。中標津には結婚などでフィリピンや、韓国から来た信者がおられ、根室教会にはベトナムからきて、研修生として水産加工場などで働く若い信者が数人、熱心にミサに参加しています。日本は外国人労働者を人としてではなく、単なる労働力としてしか考えていないかのようです。しかし、私たち日本の教会も外国人信徒を真の兄弟姉妹として受け入れているのでしょうか。ここに日本の教

会の福音化の大きな課題があるように思えます。このことで、年寄りの冷や水ならないように、むしろ花咲

兄弟の皆さん

ヨゼフ兄弟

こんにちは！主の平安！

はじめまして、ヨゼフ兄弟、又神父ともうします。アメリカで生まれ、昭和37年にフランススコ会に入会、42年の叙階式の後43年に日本語の勉教のために日本へ派遣されました。

私ははじめて北海道に足をふんだ時といえは、それはもう45年前のことでした。その時、六本木の日本語の学校の先生が「かわいい子には旅をさせよ」と言ってお下された助言に従って、もう一人の兄弟といしよに、オートバイで北海道を回って来ました。まだ新米の二人だったので、頼

爺さんのように福音の喜びを撒き散らせたらと願っています。



みやすい食べ物「カツ丼」をズツと飽きないで食べていましたよ。

しかしあの時旭川市に行かなかったと思う。ですから、この間、旭川の風景の美しさにはと驚きました。何と素晴らしい大雪山と元気良く流れて行く五つの川。ここでの新しい共同体に快く迎えられる自分、この頃教皇フランチェスコが進めている「福音の喜び」を持って、皆さ

んの暖かい援助をいただきながら元気な新しいスタートが出来るにちがいないと感じています。

東アフリカで30年間以上の間、神の導きの内にあるいろいろな素晴らしい、又挑戦的体験を通して得た恵みを感謝しています、今から皆さんといっしょに、この清々しい旭川の環境の中に、お互いに助け合って、世界のどこにでも希望をもたらす福音を生かして行くことではありませんか？浦島太郎みたいに長いあいだ日本での福音宣教の活動から離れていた私ですが、わたしたち皆に委ねられた宣教の使命に力を合わせて頑張ってくださいですね。どうぞくれぐれもよろしくお願いたします。



教区司祭ヨゼフ荒木関孝神父様の葬儀ミサが行われる

2014年12月3日午後6時から通夜、4日午前10時から葬儀ミサが、カトリック北一条教会（札幌カテドラル）で、ベルナルド勝谷太治司教の司式で行われた。司祭・修道者・信徒が300名ほど参列し、神父様との別れを惜しんだ。



分、神様のもとに召された。12月2日には晩年を過ごされた新田教会・月形藤の園で、谷内神父様の司式で仮通夜が営まれた。享年90歳

中江洋師、荒木関巧師の納骨式が行われる

2014年8月3日（日）午後1時から両司祭のカトリック白石共同墓地への納骨が行われた。

当日は、ベルナルド勝谷太治司教の司式で、司祭、修道者、信徒が約100名参加して、両師の死を悼み神様のみもとでの安息を祈った。

荒木関孝神父様は誤嚥性肺炎のため2014年10月2日から岩見沢市立総合病院に入院しておりましてが、11月30日午後8時30

故 中江神父の一年命日祭ミサを行う

2015年2月6日午前11時から、北一条教会にて、勝谷太治司教の司式で行われた。追悼ミサには司祭、

修道者、信徒150名余りが参加して行われた。

勝谷司教は、説教の中で、一昨日行われたユスト高山右近没後400年祭ミサが行われたことに触れて、困難の中で、信仰を重ねた証しを我々は做っていかねければならない。中江神父様は、病気の中であつても信仰を貫いた方であり、一年

命日祭に神様のみもとでの安息とご家族のために祈ってくださいと結ばれた。

全道司祭大会開催

2014年は、

6月30日(月)

7月1日(水) 藤

学園セミナーハウ

スと花川マリア院

にて行われ、勝谷

司教の基調講演が

行われた。その後、

基調講演に関する

分かち合いがグ

ループに分かれ行

われると同時に、



＝勝谷司教の講話に耳を傾けている司祭団＝

親睦を深める大会となつた。講話に照らして、札幌教区の現状を考え、今後の宣教司牧方針などを分ち合いました。

教会統合について

2015年4月1日から統合される2つの教会が誕生

▼カトリック釧路教会

釧路教会と新川教会が統合される。教会住所と連絡先は旧釧路教会。旧新川教会は新川集会所(聖体安置はなし)となる。

▼カトリック小樽教会

住ノ江教会と富岡教会が統合され誕生する。教会住所と連絡先は旧住ノ江教会で、旧富岡教会は富岡聖堂(巡小教区、分教会)となる。

司教諮問会議(土地建物部門)が開催

4月28日から10月24日までの間に6回開催される。

諮問委員は信徒・修道者11名と教区本部事務局長、事務局次長の13名で構成。

これは、2014年頭司牧書簡にも記されていたが、司祭の減少と高齢化に伴い、司教と司祭団が全て

を行うことは難しくなつてきており、事案に応じて、専門的な知識を持つている信徒・修道者に諮問し意見を聞きたいという勝谷司教の考えによる。

先ず勝谷司教は、

2014年4月28日に、土地建物・財政に関する司教諮問会議(座長・水上泰助氏・小野幌教会)を設置し、北一条教会に併設する聖園幼稚園が、2014年10月に認定こども園に新しく生まれ変わることに伴い、現在の幼稚園舎をどうするかなどを含めた北一条教会・司教館周りの教区財産の有効活用に関して総合的な活用方法を検討してもらうように諮問を行う。

同会議は、勝谷司教の諮問を受けて、司教館やベネディクトハウスは、経年劣化しているため修繕費が高くなっており、それに代わる施設の手当が必要と判断し、先行的に北一条教会(司教座聖堂)と、札幌司教館などがある北一条東6丁目の土地・建物の一体的な有効活用を、他教区の事例を

参考にしながら検討を行った。

同会議では、建設費に教区民に出来る限り負担をかけないようにするため、土地を有効に利用する収益事業の形態や内容を模索し、11月1日付で勝谷司教に諮

問会議の答申を行った。司教はその答申を受けて、教区顧問会、司祭評議会、教区宣教司牧評議会、教区司祭団に諮り、これから具体的な方向を探っていく事になる。

プレ大会「障がいと共に歩む札幌大会」に155名集う

2014年10月26日

(日)、札幌藤女子大学において障がいと共に歩む札幌大会実行委員会が主催する、「障がいと共に歩む札幌大会」プレ大会が開催された。

この大会は、2015年8月22日～23日に開催されるカトリック障害者連絡協議会(以下「カ障連」)札幌全国大会「障がいと共に歩む札幌大会」に向けたリハーサルと、道内信徒を対象とした大会として企画された。

当日は大阪からカ障連会長・宮永久人氏、事務局長・田中実氏を迎え、障



がいのある方39名を含む155名が「主の食卓に招かれたものは幸い」というテーマのもと集った。

札幌大会事務局長の菊地秀治氏によると、午前の場崎洋神父(実行委員会担当

司祭・カトリック北26条教会主任司祭による基調講演を受けて、午後は4分科会「精神障がい仲間よ、全員集合!」「障がいの家族よ、本音で語ろう!」「教会は障がいとどう向き合うか」「生きづらさってなんだろう?」で17グループに分かれて活発に討議が行われ、分科会後のミサでは、17グループの分ち合いを、一つつつ共同祈願として主に捧げたという。

大会後の参加票には、「どんなことがあっても神様の御旨のうちに、希望を持つことができる社会の一員としての役割を考えたいと思います」「障がいの者の方々の考え方もそれぞれ違い、その人の価値観をよく理解し、そこからコミュニケーションが可能になることを分らせていただきまし



長崎の爆心地に奉納された札幌からの千羽鶴

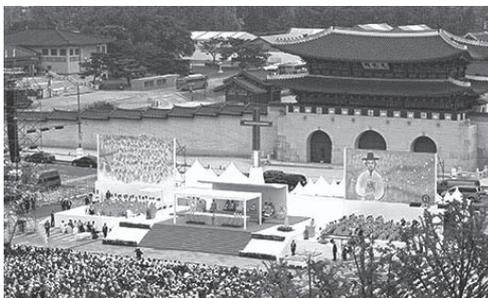
あり、まず自分から変わる」という感想が多く寄せられていた。



AYDの会場へ向かっているアジア各国の青年たち



8月韓国で行われたAYDの会場でミサを奉げる教皇フランシスコ



何十万人にも信徒が集まったとされるAYDミサ会場



聖堂で信徒の代表者を祝別なさっている教皇フランシスコ

写真で見るアジアユースデー

カリタス家庭支援センター開設10周年を祝う

2014年5月17日午前10時から10周年記念ミサ (勝谷太治司教司式) が、司教2名と5名の司祭、修道者と信徒が約60名参加し行われた。

勝谷司教は説教の中で、カリタス家庭支援センター開設に当たって、当時の地主司教の英断と場崎洋神父の労苦に謝意を述べ、次のように語られた。

もつとも弱い立場の人と一緒にいて、その人々の声を代弁することは大切な事であり、教会の本質にあるものです。困難な経済状況下にあつて10年間続いているのは、そこに使命があるということなのです。

必要がなくなればその役目を終えることになるが、この10年間、カリタス家庭支援センターの活動を続けるといふことに神様の意思があつたと言ふことだと思ふいます。

狭間に落ち込んだ人々の相談にのり、どこまで関

わつたら良いか悩むことも多いでしょう。そんな時、その人の中にいるキリストが何を求めているのかを見つめることが大切であろうと思ふいます。

現実には厳しい状況で運営しています。何をしても切り捨てるのか難しく悩んでいるでしょう。金銭的、霊的な支援がこれからも必要ですので皆さんのご支援・ご協力をお願いしますと結ばれた。

ミサ後、報告会が行われ、開設から現在までの活動報告が行われ、約50名の方々が報告に耳をかたむけていました。

対応件数は当初の600件から10年で4倍の約2400件になり、相談員2名で対応し、相談者の80%が札幌市内から、6%が道外からの相談者です。相談者の64%が心身に障害や疾患を抱える方からの相談となつている。

2014年5月17日午前10時から10周年記念ミサ (勝谷太治司教司式) が、司教2名と5名の司祭、修道者と信徒が約60名参加し行われた。

勝谷司教は説教の中で、カリタス家庭支援センター開設に当たって、当時の地主司教の英断と場崎洋神父の労苦に謝意を述べ、次のように語られた。

もつとも弱い立場の人と一緒にいて、その人々の声を代弁することは大切な事であり、教会の本質にあるものです。困難な経済状況下にあつて10年間続いているのは、そこに使命があるということなのです。

必要がなくなればその役目を終えることになるが、この10年間、カリタス家庭支援センターの活動を続けるといふことに神様の意思があつたと言ふことだと思ふいます。

狭間に落ち込んだ人々の相談にのり、どこまで関

訃報

▼教区司祭

ヨゼフ荒木関孝神父



2014年11月30日に、誤嚥性肺炎で入院していた岩見沢市立総合病院にて神様のもとに召されました。享年90歳。

【略歴】

1923年12月16日

旭川で生まれる

1923年12月25日

旭川五条教会で受洗

1956年12月21日

北一条教会で司祭叙階

1957年4月1日

北一条教会助任司祭

1958年2月1日

小神学校校長に就任

1963年4月1日

小樽富岡教会主任司祭

1967年9月1日

円山教会主任

1978年2月1日

北一条教会主任

1989年4月1日

岩見沢教会主任

1998年4月1日

長沼・夕張教会主任司祭

この間幼稚園長などを歴任

2002年4月1日

新田・岩見沢教会協力司祭

2006年12月11日

脳梗塞のため入院し治療

2007年6月7日

療養のため月形藤の園へ入所

2014年10月2日

誤嚥性肺炎のため岩見沢市立総合病院に入院

2014年11月30日 帰天

▼メリノール宣教会

メイナード神父

1954年8月

来道し室蘭教会の主任に着任

1958年9月

伊達教会主任

1965年3月

新富町教会主任

1969年4月

登別教会主任

1979年1月

夕張教会主任

1983年～1994年

アメリカと京都で司牧

1994年～2006年

表町教会、伊達教会の主任

2006年9月26日

日本での宣教を終えられアメリカに帰国

2015年2月3日 帰天

▼トラピスト修道院

ベルナルド吉田昇修道士

2月20日早朝、循環器系疾患のため神様のもとに召されました。享年65歳

【略歴】

1950年2月13日

青森県に生まれる

1982年5月8日 入会

1984年12月8日

有期誓願

1988年3月19日

盛式誓願

2015年2月20日 帰天

司祭叙階

▼殉教者聖ゲオルギオのフ ランシスコ修道会

◇ Sr. M・ヴィアンネ

酒井セイ子



2014年6月22日 帰天

◇ Sr. M・ステファナ

鳥羽 美鶴



1961年9月23日

終生誓願

2005年11月23日

誓願金祝

2014年7月2日 帰天

◇ Sr. M・ベータ荒川 静子



初誓願後に新田マリア院で近隣の娘さんたちに裁縫を教えた後に札幌の藤女子中高校で家庭科の教師として定年まで熱心に務めました。定年後は札幌マリア院第二共同体院長を務められました。何事も完全にすることを事故に求める分、他の人にも厳しい面がありました。が、卒業生のためにもいつも祈っていました。3月に重い病気が見つかり緩和治療を行っていましたが7月2日に神様のもとに召されました。享年85歳

【略歴】

1923年11月26日

夕張市に生まれる

1943年6月20日

岩見沢教会にて受洗

1948年10月2日 入会

1951年8月13日

初誓願

1956年9月15日

終生誓願

2000年11月11日

誓願金祝

2010年11月23日

ダイヤモンド祝

2014年10月7日 帰天

◇ Sr. M・エルフリーデ

山本 文字



札幌と旭川の藤女子高、青森藤聖母園、一関藤の園児童養護施設、青森藤の園老人ホームなどで事務の仕事を担当する。若い頃に肺結核を患い4年間手術などの治療を行った。55年間の修道生活を送り神様のもとに召されました。享年86歳

【略歴】

1928年5月7日

渡島当別に生まれる

1951年3月23日 受洗

1959年3月31日 入会

1962年1月12日

初誓願

1967年8月12日

終生誓願

2011年11月23日

誓願金祝

2014年11月15日 帰天

◇ Sr. M・コロナ奥山わか子



藤女子短期大学で教鞭をとりながら北大大学院で勉強を続けられ、1977年から1983年までは修練長を務められた。2015年1月9日に花川マリア院で転倒して硬膜下血腫となり、入院先の札幌の禎心会病院で1月14日神様のもとに召されました。享年86歳。

【略歴】

1928年12月9日

札幌に生まれる

1947年8月14日 受洗

1951年8月25日 入会

1956年8月11日

初誓願

1960年9月23日

終生誓願

2005年11月23日

誓願金祝

2015年1月14日 帰天

◇ Sr. M・セシリア

河西 郁子

花川マリア院において3月10日午後2時35分神様のもとに召されました。享年

96歳

【略歴】

1919年2月9日

生まれる

1938年5月12日 受洗

1946年3月18日 入会

1949年1月6日

初誓願

1954年10月2日

終生誓願

1998年8月11日

誓願金祝

2008年3月29日

ダイヤモンド祝

2015年3月10日 帰天

▼聖ベネディクト女子修道会

◇ Sr.ウルスリン村上 麗

9月25日午後3時39分に入院先の室蘭太平洋病院で帰天なさいました。享年94歳でした。

1920年6月13日

東京に生まれる

1946年2月11日 受洗

1961年3月18日 入会

1964年2月10日

初誓願

2014年2月10日

誓願金祝

2014年9月25日 帰天

◇ Sr.ヨハネ久保 燿子

入院先の室蘭太平洋病院で12月31日午前0時30分に神様のもとに召されました。1989年から1997年の間、修道院長の重責を担われました。享年83歳

【略歴】

1931年7月18日

東京に生まれる

1962年3月16日 入会

1965年2月10日

初誓願

1969年2月10日

終生誓願

1989年1997年

修道院長

2014年12月31日 帰天

※亡くなられた司祭・修道者の方々が、そして亡くなられた兄弟姉妹すべての方々が、神様のみもとで安らかに憩われるよう、どうか皆様お祈りください。
そして、教区百周年の年に当たり、教区の第2世紀に向かつて、神様のみ旨を行うことができるように、天国からわたしたちを導いて見守ってください。

編集後記

教区百周年を迎えて

東日本大震災から丸4年
札幌教区でも3月11日午後2時から北一条教会で、大震災の犠牲者追悼と復興を祈願してミサを行いました。

今年の4月13日に、札幌教区が北海道一体となって教区の前身である知牧区となって百年を迎えます。

札幌教区が支援活動を行っている岩手県の宮古市もそうですが、被災地ではボランティア数が激減し、マスコミの取り上げ回数や内容にも風化現象がみられるなど、経年とともに震災の記憶が薄らいでいく周りの人たちの姿があります。被災者の方々には、一人ひとりにそれぞれの重い人生があり、現在もそれが延々と続いているはずで、わたしたちは、これからも震災の記憶を風化させることなく、これから各々の立場で何が出来てくるかを考え実行していく時が、今、来ているのだと思います。

そして、札幌教区百周年の年を迎えるにあたり、北海道に教会の礎を築き、そして百年間にわたり教会を全道に広げた先人の方々の働きに心から感謝し、新たな百年札幌教区の第2世紀)に向かつて、私たちは、札幌教区や日本の教会の姿を真摯に振り返り、新たな歩みを進めて行かなければなりません。どうか皆さんお祈りください。そして、皆で分かち合ってください。

どうか皆様、自分でできることを考えてみてください。そして、一歩ずつ踏み出してください。そして、被災地の方々と、これからも寄り添っていきましょう。

勝谷司教様は年頭司牧書簡で、これからの教会運営は、信徒の協力が大きな力となると語っています。教区百周年の年を迎えて、私たちは一年かけてじっくり、それぞれ何ができるかを考えていきましょう。
大きなことからではなく、小さな一歩から始めましょう。そして、また一歩、また一歩と確実に歩みを進めていきましょう。(編集子)